

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和〇〇年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	神埼市立千代田東部小学校
1 前年度 評価結果の概要	・教職員・児童・保護者・地域が連携し、学校全体で互いを支え合う温かな雰囲気づくりを進めることができた。児童アンケートでは「千代田町の町や人が好き」「学校は楽しい」と回答した児童がいずれも98%と高い割合を示しており、子どもたちが安心して過ごすことのできる、誇りある学校づくりが着実に推進されていると評価できる。 ・多くの児童が読書習慣を身に付けており、今後は読書内容の質を高めるとともに、継続して読書に親しめる環境づくりを進める。家庭学習では宿題への取り組みは定着しているが、主体的に学習内容を選択する態度や自主学習の質の向上を図る必要がある。次年度は、読書の習慣化に向けた働きかけを継続するとともに、児童が自ら課題を設定し主体的に学べるよう、指導の工夫をさらに進める。
2 学校教育目標	「渾身勉強」「白鳥蘆花に入る」 ～ 夢に向かって、気づき・考え・行動する児童の育成 ～
3 本年度の重点目標	・自己肯定感をもち、自分の力を信じ、自分を律することができる児童の育成 ・思いやりと協力の心をもち、ふるさとを誇りに思い、ふるさとを愛する児童の育成 ・自ら課題を設定し、主体的に学びに向かう児童の育成

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			主な担当者		
(1)共通評価項目				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	最終評価			学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組				実施結果	評価		意見や提言	
●学力の向上	○知識・技能等基礎基本的な学力の確実な定着	○国語・算数の標準テストの「知識・理解」で、全国平均点以上の児童が80%以上	・算数の授業では、必ず適用問題に取り組みせ、理解の状況を把握して、次時の授業に生かす。 ・宿題は、書き直し等までさせるよう努める。 ・スキルタイムで、国語・算数の基礎基本的な問題に繰り返し取り組みさせる。その際、地域人材の支援を効果的に活用する。								
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 ○児童が自分のよさに気づき、高い自己肯定感をもって学校生活に意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○道徳教育に関する以下のアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上 ・自分やまわりの人の命を大切にするために、危険な行動をしないように気をつけている。 ・学校生活の中で、友達や先生に進んで親切な行動をしている。 ○いじめ防止等についての組織的対応ができていると回答した教員95%以上 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上 ○「自分には良いところがある」と回答した児童95%以上	・心タイムで心の木カードや構成的エンカウンターに取り組みすることで、自尊感情を高めたり、他者への思いやりの心を育てたりする。 ・「生命の尊さ」親切、思いやり」の内容項目を道徳科の重点項目とし、道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・毎月1回行う「心アンケート」の結果や気になる子の情報を生徒指導連絡会で全職員と共有する。 ・職員研修や情報交換を通して、児童の良さを全職員で共有し、ほめるを重ねる。 ・マナー教室等の機会を通して、自分の将来の夢や目標について、考えさせる。								
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ○「安全に関する資質・能力の育成」	●「昼休み外で元気に遊んでいますか」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○「休み時間は、きまりを守って遊んでいますか」について肯定的な回答した児童生徒90%以上	・晴れた日は外遊びを推奨する。 ・保健・運動委員会を中心に遊びの企画や運営を行い、運動やスポーツに取り組む機会をつくる。 ・「遊びに関する7つのきまり」を活用し、きまりを守ることや呼び掛けたり、きまりを守っているか振り返らせたりすることで、安全に遊ぶ意識を高める。								
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○働きやすく、疲労蓄積の低減を目指した働き方改革の推進	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 ○「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」での「負担度 やや高い」職員の割合15%未満	・18:15までの全職員退勤と毎週金曜日の定時退勤日を周知徹底し、毎日18:00に言葉掛けを行う。 ・月に1回、職員の意識調査をアンケート形式で取ることで状態を把握するとともに、業務の効率化について職員全体でアイデアを出し合い、考え、実行し、業務改善を図る。 ・職員研修を計画的に実施し、長期休業中に連続して休みを取れるようにする。 ・期の健康状態に加え、退勤予定時刻を出動時に記入し、見直しをもって業務に取り組み、効率化を図る。								
●特別支援教育の充実	○一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	○配慮を要する児童の指導・支援に取り組んでいると回答した教員95%以上	・学期に1～2回、職員研修を行い、必要な指導・支援について共有する。								
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○地域の特色を生かした教育	○地域教材の活用 （「次郎の里」の教育実践）	○「千代田の町や人が好き」と回答する児童95%以上	・じろろ週間や次郎集會、下村湖人生家一日体験学習を設け、地域の人材を活用しながら、下村湖人や次郎物語に関する学習を各学年で行う。								
○	○「白鳥蘆花に入る」の精神が生きるボランティア活動等の体験活動の充実	○ボランティアバスポート1冊以上100% ○進んで元気なあいさつをする児童90%以上	・各学級でボランティアのめあてを決め、児童が自主的に校内、校外の活動に取り組むようにする。 ・年間の生活のめあてとして「あいさつ+1」を掲げ、進んで元気なあいさつが飛び交う学校を目指す。								

●・・・果共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------